聖ヨゼフ学園
中学・高等学校

2020年「共学化」へ

St.JOSEPH's Junior & Senior High School 2020

1898年 和解と一致を求めて

今の時代だからこそ大切にしたいアトンメント（和解と一致）の心

1898 年（明治 31年）	ポール・ワトソン神父によりアトンメントのフランシスコ会創立
1948 年（昭和23年）	アトンメントのフランシスコ会が来日 日本での本部を鶴見に置き活動を開始
1953 年（昭和28年）	勝野巌神父を初代校長として鶴見聖ヨゼフ小学校（男女共学）設立 シャルトル聖パウロ修道女会（白百合学園）の協力を得て教育活動を開始
1956 年（昭和31年）	校名を聖ヨゼフ学園小学校に改称
1957 年（昭和32 年）	聖ヨゼフ学園中学校（女子校）設立
1962 年（昭和37 年）	小学校から高等学校まで 12学年 24クラスがそろう
2018 年（平成30 年）	聖ヨゼフ学園小学校が国際バカロレア PYP校の認定を受ける 聖ヨゼフ学園中学校共学化・中等教育プログラム導入の発表

●創立期のヨゼフ館

2020年 今の時代だからこそ

●現校舎

なぜ、共学化なのか

教育を取り巻く社会状況の変化に対応

- ●急速なグローバル化
- ●少子高齢化社会
- ●人工知能の急速な進化
- ●先行き不透明な時代
- ●アナログからデジタルへ
価値観や生活環境の変化
- ●物理的に豊かな社会から、
精神的に豊かな社会を目指す

校訓

愛 信 望

信仰・希望・愛の力によって、
一人ひとりが生かされていくように、
この三つの力（徳）を
「信・望・愛」の校訓として掲げています。

教育方針

（1）カトリックの教えに基づき、愛の心を涵養する。
（2）知性、徳性を高め、心身を鍛え、社会に貢献する人を育てる。
（3）神にいただいた個々の賜物に気づき、生かそうとする姿勢を育てる。

教育目標

よく学び努力する人、知恵のある人

◆誠実に学び、自己の可能性を広げる。
◆より高い価値の実現を目指し、知識を知恵に高めるように努力する。

いのちを喜び、感謝と奉仕の心を持って生きる人

◆自分のよさを受け止め、いのちを与えられたことに感謝する。
◆いのちを尊重する心と生活姿勢を持つ。
◆感謝に基づいた真の奉仕の心を持つ。
◆良心の勧めに従って行動できる強い意志を持って生きる。

●理事長・学園長
平松達美

●中学・高等学校　校長
清水勝幸

カトリックの教えに基づく全人教育

1学年2クラス 少人数制教育を継続

世界的に評価の高い国際教育 中等教育プログラム導入

2020年「共学化」

生涯学び続ける人 ＝ 人々の真の平和と幸福を創り出す人

- ●校訓・学園基本精神・教育方針は変わりません。
- ●2018年1月、併設小学校の国際バカロレア初等教育プログラム（PYP）認定を受け、中学校においても中等教育プログラムを導入することを検討しています。
- ●2020年4月の中学入学者の入試より、男子生徒の受け入れを始めます。

※高校は、2023年共学化の予定です。

●勝野講堂

ともに学ぶ

「聖ヨゼフの教育プログラム」について教師が語ります。

● 清水 純子

Inquirers
知的好奇心にあふれる
「科学の甲子園」で育んでいく

理科好きの生徒を育てたいという思いから、「科学の甲子園」「科学の甲子園ジュニア」にエントリーしています。私が出場にこだわるのは、出場した生徒が必ず大きな刺激をもらって帰ってくるからです。チーム戦の中で、コミュニケーションを図り限られた時間の中で失敗を繰り返しながら、最もうまくいく方法を探り実践します。今年、「科学の甲子園ジュニア」の神奈川県大会実技競技部門で、見事3位入賞を果たしました。これからも生徒の探究活動を応援していきます。

Balanced
相互バランスがとれている
他者とともに育んでいく

自分自身がより良い学びをするために、自分だけが良いのではなくクラスの仲間も居心地の良い場になるよう配慮できる生徒たちになってもらいたいと思います。部活動で部長になった場合、部員と自分との活動に対する温度差を感じ悩みます。自分の思いだけでなく、自分が所属する環境を良くすることを考えることで、周りや自分の能力向上に繋がっていきます。授業でも部活でも内面的な成長を促していくことで、自分が所属する環境を良くする人に育てたいです。

● 教頭 武田 けい子

Knowledgeable
知識がある
授業で育んでいく

生徒にはさまざまなことを自分事として捉えてほしいので、授業では「どうして？」「どうしたらよいと思う？」とたびたび投げかけます。物事を頭で理解するだけでは他人事の域を出ません。「感じた」時に知識として身にしみわたり、思考が働き心が動く、これが自分事ということです。生徒から「社会は頭を使うから疲れる」と言われることがありますが、これはしめたもの。生徒には、一見遠く思えることも、「どうしたらよいか？」を考え続ける人になってほしいと願っています。

● 酒井 明日子

Caring
尊重できる
「修養会」で育んでいく

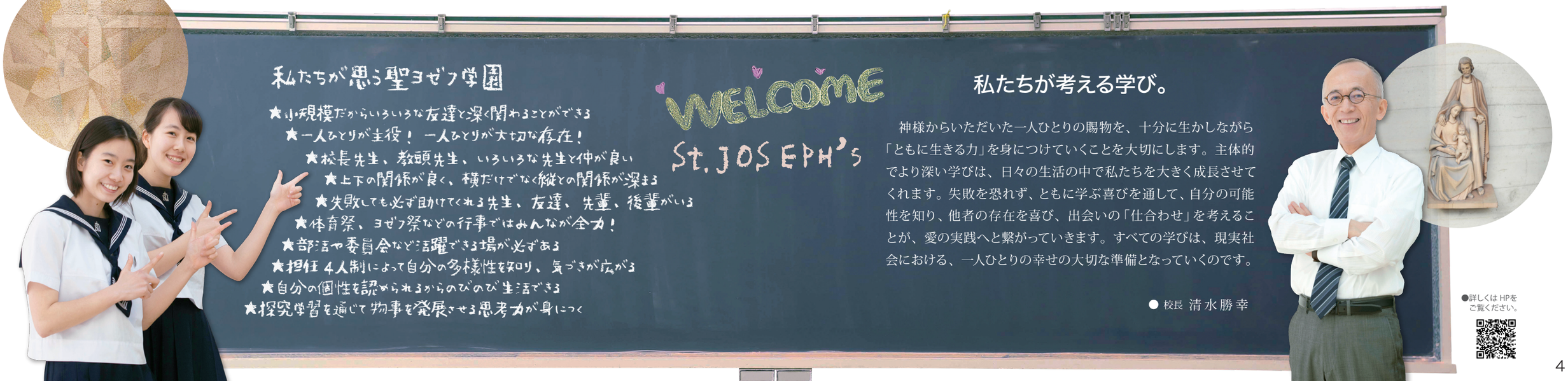
学年ごとに一年に一回、分かち合いを通して自分自身をみつめる「修養会」という行事を行っています。修養会の振り返りを感想文にまとめているのですが、中3のある生徒のものが印象的でした。「人間はみんな変わることができる」という神父様の話を聞いて、彼女は何のために勉強するのか、つまり「人間になるために勉強する」という新たな視点を得たようです。今後も「修養会」等の行事を通して、生徒へたくさんの「気づき」を与えたいと思っています。

● 成瀬 智

Risk-takers
決断力がある
Don't be afraid of making mistakes

Our students are not great risk-takers right now, but they are improving little by little. Just speaking in English is a great challenge, since students worry so much about what their friends think of them. I want the students to gain the confidence to speak out and make mistakes in front of other people. In the Advanced English Course, we are fostering a respectful environment; students feel safe to speak their minds, and their classmates listen attentively to each other.

● メーガン・オームスビー



私たちが考える学び。

神様からいただいた一人ひとりの賜物を、十分に生かしながら「ともに生きる力」を身につけていくことを大切にします。主体的でより深い学びは、日々の生活の中で私たちを大きく成長させてくれます。失敗を恐れず、ともに学ぶ喜びを通して、自分の可能性を知り、他者の存在を喜び、出会いの「仕合わせ」を考えることが、愛の実践へと繋がっていきます。すべての学びは、現実社会における、一人ひとりの幸せの大切な準備となっていくのです。

● 校長 清水勝幸

●詳しくはHPをご覧ください。

ともに生きる

「聖ヨゼフの学び」について生徒が語ります。

「生涯学び続ける人」になるために
Life-long Learner

将来の設計
学びの連続性
心の成長

中学1 自分と自分をとりまく社会を知る
中学2 世界に視野を広げる
中学3 伝統文化に触れるさまざまな職業を知る
高校1 さまざまな経験を通して自分の適性を探る
高校2 社会の一員として自覚を待ち目標を決める
高校3 夢の実現に向かって行動する

学びの基礎・学びの楽しさ
学びの広がり・探究する経験
学びの深化・発信する喜び

●かけがえのない自分、そして自分の可能性を知る。
●他者を知り、自分にできることを考える。
●「仕合わせ」を考え、愛を実践する。

社会で活躍する人間を目指して

〈卒業生の声〉

「仕合わせ」になるために自分ができること

北村理歩さん
早稲田大学法学部（2015年卒）

在学中に芽生えた「難民支援に携わりたい」という夢を胸に、社会人1年目からウガンダでの仕事に就きました。海外で価値観の違う人々と仕事をする中で、相手を尊重することを大切にしています。こうした姿勢は、在学中の友人や先生達との深い関わりの中で、自然と備わった私の強みです。縁あって、英語の教員として母校に帰ってきましたが、今年からは再び夢に向かって、イギリスの大学院で難民支援について学びます。

図書館

「安らぎの場」であり「探究の場」

Mさん

私にとっての図書館は「心を和ませてくれる場所」です。いつもたくさんの本と司書の先生が温かく迎えてくれます。穏やかな雰囲気の中で休み時間や放課後に友達と楽しく過ごすことができます。図書委員会では読書週間、お薦め本の紹介であるポップ大賞、季節ごとの飾りつけなどをおこない、多くの生徒が楽しめるように取り組んでいます。

Oさん

私にとっては「出会いの場所」です。冊数が豊富で、行くたびに素敵な本や学習マンガなどと出会えますし、リクエストもできます。また、中1の時の「ユニバーサルな社会とは」という課題に対しては、調べ学習だけでなく、探究学習のスキルを学び、実際に「どうすればよいのか」という提案まで考えることができました。だから「学びとの出会いの場所」でもあるように思います。

英語教育

「経験と環境」が私を成長させる

Nさん

私の英語は聖ヨゼフ学園だけでの学びです。私はいわゆる“純ジャパ”（純ジャパニーズの略）です。聖ヨゼフ学園の英語の学習を一言でいえば、英語に触れる機会が多く、経験をたくさん積めるということです。日々の授業はもちろんですが、それ以外にも所属した ESS での台本読みや先輩の美しい発音を聞いていたこと、英語弁論大会での刺激、姉妹校英語の集いでの切磋琢磨など多くの機会がありました。

そのような中、高1の時に行った3か月のニュージーランドターム留学はとても良い経験でした。現地では全然単語が出てこず、自分の語彙力不足を感じたのです。何度もホストファミリーに使い方を聞くと同時に、時と場合に応じた中身が必要なのだと実感しました。

帰国後の高2の授業では、英語で現代社会の諸課題を学び、課題研究し、プレゼンをしました。その中で改めて、意見の主張、反論方法などの重要性を学びました。「多少の文法・語彙の誤りは気にする必要はない。伝えようとする気持ちと伝えたい内容が大切」という、先生とクラスメイトとが認め合う学習環境こそが、さらに英語を高める要因になっているのだと思います。今は国際法に興味を持っています。将来、英語とともに英語を通じて学んだことを国際社会の中で役立てていきたいと思っています。

行事〈体育祭〉

「主役」それは「全員」

Aさん・Kさん

「笑顔」があふれ「涙」が流れる「学園で一番熱い日」、これが聖ヨゼフ学園の体育祭です。体育祭は学年対抗で競います。 5月に実施しますので、新学年になると、競技の出場種目の決定とともに、各学年とも一斉に準備、練習に入ります。とくに学年演技（中2～高3）に関しては、多くの学年が前年から構想を練り、自分たちの特性を考えて、学年演技担当係を中心に練習します。こうして、学年間において団結力がおのずと培われていきます。学年カラーを表す6色のハチマキ、6色の応援旗は学年の絆のみならず、代々受け継がれてきた伝統の象徴です。

また、体育祭実行委員を中心にすべての生徒が係につき役割を持って作り上げていくことも大きな特色です。体育祭実行委員会は、前年度から、競技種目改善やルールの変更、全体スケジュールの立案と周知徹底を図り、新年度になると係分担、実際の声出しやグラウンド整備など、本番に向けて一気に全校生徒を引っ張っていきます。この頃の実行委員の頭の中は四六時中体育祭のことでいっぱいになります。本番1週間前には体育祭総練習をおこない、一通りの競技と係運営の確認をしますが、総練習後の放課後は体育祭実行委員会と各係の責任者が集まり反省会を催し、互いに意見を言い合います。すべては体育祭を良くするためです。だから、こうして試行錯誤を経て迎える本番の体育祭は、誰もが主役になるのです。

競技や学年演技でみせる勝敗の「笑顔」と「涙」、そして、体育祭を作り上げたという達成感の高揚でみせる「笑顔」と「涙」、学年だけでなく学校全体が団結する行事、これが聖ヨゼフ学園の体育祭です。

クラブ〈サイエンスクラブ〉

「未知を知る」チャンスがいっぱい

Aさん

私が生物部に入ったきっかけは、小学生の時に参加したオープンキャンパスでの解剖体験です。ブタの眼球に解剖バサミを入れた時の不思議な感覚は今でも忘れられません。先輩方はブタの脳を解剖しており私自身ももっといろいろな解剖をしたいと思いました。今は自然科学部と合併し「サイエンスクラブ」になったことで、より活動の幅が広がりました。「スライム作り」、「ペーパークロマトグラフィー」「物質の色素を分離させる」といった生物、化学、どちらの分野からも実験します。自分たちが興味を持った実験を自分たちでできることにやりがいを感じるとともに、数多くの経験と初めて得る知識、そして仮説、調査、結論をまとめて探究する喜びは格別です。

昨年『科学の甲子園』県予選にチームを作り出場しました。残念ながら入賞には届かなかったのですが、他校と競い、失敗と成功を繰り返しながら、意見を交わし取り組んだことは貴重な経験となりました。今年は優勝を目指します。

クラブの後輩・同学年の仲間と協力しながら、これからもサイエンスクラブという名称にふさわしい貪欲な活動を展開していきます。

INFORMATION

公開行事予定

4/13(土) ●第１回学校説明会
10:00～11:30

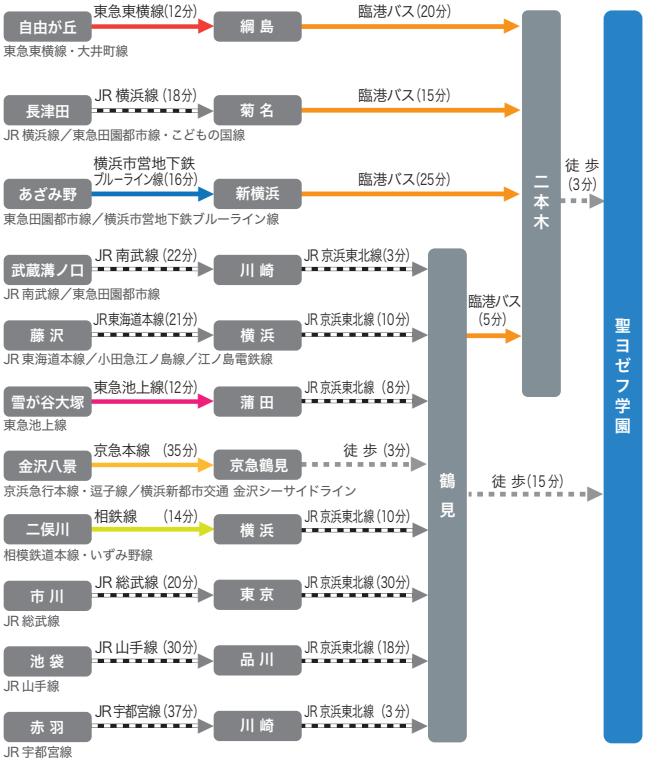
5/10(金) ●体育祭
9:00～15:00

6/22(土) ●オープンスクール
11:00～13:00

9/15(日)
11:00～15:30
(時間は予定)
16(祝) ●学園祭「ヨゼフ祭」
9:00～15:00
(時間は予定)

ACCESS

交通の案内



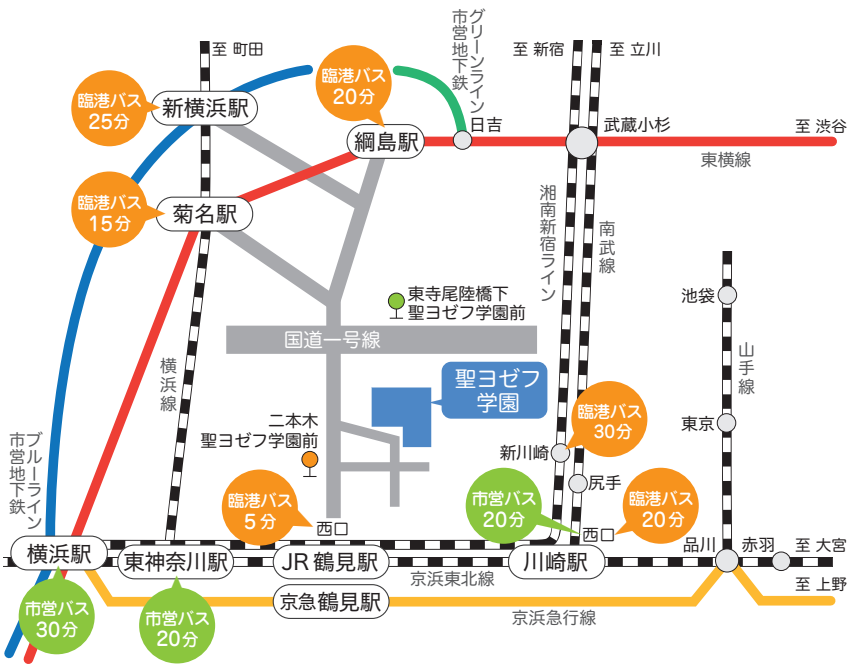
MAP

学園周辺

※臨港・市営バスのご案内

臨港バス
JR 鶴見駅西口、東急綱島・菊名、
JR 新横浜・新川崎、JR 川崎駅西口より
臨港バス【二本木】下車

市営バス
横浜駅・川崎駅西口・東神奈川駅より
国道一号線市営バス
【東寺尾陸橋下】下車



聖ヨゼフ学園中学・高等学校

〒230-0016 横浜市鶴見区東寺尾北台11番1号 TEL:045-581-8808／FAX:045-584-0831
https://www.st-joseph.ac.jp/